

私たちはボランティア精神のもと
「市民後見人」として、地域社会に貢献することを目指します。

会報/市民後見人の会 No. 107

2016年10月20日発行 通巻No.117号

創刊2007年2月27日

発行/特定非営利活動法人 市民後見人の会

〒140-0014 東京都品川区大井1-15-1 品川成年後見センター分室3階

TEL : 080-3912-3259 (通話専用 月～金曜日の10時～16時の間対応します。)

FAX : 03-6303-8265 (FAX専用 受信は24時間対応できます。)

MAIL : npokouken@gmail.com HP : <http://www.shiminkoukenninnokai.jp>

◆勉強会を開催 32名が参加◆

9月17日に、後見部会主催の今年度事業計画である勉強会が開催されました。後見人の育成・指導の一助としての情報の共有・提供を行い、個々の知識・技術のレベルアップの向上を目的とするものです。3名の後見担当者からそれぞれのケースを発表して頂きました。



被後見人の方が亡くなった後の死後事務、医療同意、病

院・施設の移動等々について、どれも困難なケースですが担当者がどのように工夫、苦勞してきたかが発表され、後見業務の大切さと責任の重さを改めて認識させられました。

また、勉強会後には簡単な茶話会、とは言っても十分なアルコールも入り多いに盛り上がり、会員同士の親睦を深めました。



◆79歳女性の成年後見人に◆

東京家庭裁判所は9月27日、品川区長が申し立てていた区内在住女性(79歳)の成年後見人に本会を、品川区社会福祉協議会を成年後見監督人とする審判を行いました。これで、本会の成年後見人等受任累計数は34件となりました。

◆勉強会・忘年会のお知らせ◆

12月17日(土)午後、全会員を対象とした勉強会、忘年会を行います。まだ場所・時間等は未定ですが、今年の締めとして多くの会員の方たちの参加を希望します。勉強会または忘年会だけの参加もちろんウェル・カムです。詳細は追ってご連絡しますが、空いている方は予定に入れておいて頂ければ有難いです。

◆9月度理事会報告◆

- 1 開催日時 平成28年9月26日(月)17時00分～19時30分
- 2 開催場所 品川区本会事務所
- 3 出席理事 古賀忠壹理事長(議長)、朝倉鈴子、安齋実、大岡朋子、澤谷義則
杉谷徹夫、高橋宣子、中越勝各理事
- 4 欠席理事 國枝園子、高原三平各理事
- 5 オブザーバー 小松統監事、金城清会報編集人

議事録

<審議事項>

- ① 2、4、14、16、21、32各号の後見担当者交代を決議した。
- ② 本会設立10周年記念事業の実施について決議した。詳細は、別に実行委員会を設置し検討する。

<報告事項>

- ① 後見部会主催の新人研修及び勉強会(9月17日)の報告があった。
- ② 業務指導委員会(9月26日)の開催報告があった。
- ③ 本会のパンフ案について協議した。

<今後の予定>

- ① 12月17日(土)午後 本会勉強会・忘年会



◆業務指導委員会◆

9月26日(月)、業務指導委員会が行われました。この委員会は、本会の活動を第三者の眼から見てもらい活動内容の向上を図るものです。専門職4名の方たち(弁護士、社会福祉士、司法書士、成年後見センター所長)が参加し、21のケースを各理事・監事が報告しました。約2時間、活発な議論がなされ、また専門家の方たちから貴重な意見を頂きました。各後見担当者には追って内容をお知らせし、今後の活動に役立てて頂きます。

◆入会の経緯◆

NPO法人市民後見人の会 理事・澤谷義則

8年前、新聞の成年後見制度に関する記事を読んでいたら、お年寄りとその横で傾聴（人に寄り添い親身になって話を聴くこと）ボランティアをしている人のツーショット写真がありました。一次産業（農業と漁業）を話題にするなら北海道出身の私にもできるかなと思っていたところ、品川区報で成年後見人養成講座の記事があり応募しました。講座内容は右の耳から左に、左から右に抜けていき、「ああ、私には向いていないな、あの新聞の写真どおりにはいかないな」と気づきました。しかし、講座中に和久井さん（前理事長）の誘いを受け、自分には向いていないと自覚しつつも同意してしまいました（いい加減な野郎だな）。

会に参加し古賀さん（現理事長）の成年後見制度の普及活動に同行しましたが、古賀さんの流れるような説明に、「ただただ」感心していただけです。私には出来ない……。

その後、古賀さんから引継ぎ、大岡さん（現理事）とコンビを組んで、ある方（本会が2番目に後見受任した）の後見担当となりました。私にとって初めての後見業務です。大岡さんと二人で身上監護で施設を訪問しても、大岡さんとスタッフの方との会話を横で見ているだけです。いつも帰りの電車で、大岡さんから身上監護についての話を色々聞きました。身上監護で傾聴をしようと思っていたら、この方は「東京生まれの東京育ちで、銀座の会社に勤めていたお嬢さま」、農業と漁業の話が出てくるはずありません。でも、別れる時には「ああ良かった」と言って頂きました。銀座の街中で聞いた田舎訛りにホッとすることのかな、と自分なりに後見人を担当して満足しています。

初の報告書作成では収支がなかなか合わず、期限ギリギリの提出でした。当時の理事・松本さんに見て頂いた報告書には付箋紙がこれでもかといっぱい付いていました。付箋紙には間違っていることの説明が多く書いてあります。松本さんは「大変な人が入ってきたな」と思っている顔には出さず、笑顔で私が理解するまで何度も説明してくれました。松本さんから優しくご指導を頂きありがとうございました。今も私の報告書は付箋紙と縁があります。



今年7月の勉強会で。前列右端が澤谷さん

「年をとるということが、すでに新しい仕事につくことなのだ。すべての事情は変わっていく。我々は活動することを全部やめるか、進んで自覚をもって、新しい役割を引き受けるか、どちらかを選ぶほかない」。哲学者ゲーテの言葉だそうです。凡人には耳の痛い言葉ですが、頭の隅にでも入れておいた方がいいかも知れません。

（編集 金城 清）